

建築人間工学・地域施設計画
Architectural Human Engineering / Community Facilities Planning

教員名	横田 隆司(よこた たかし)、飯田 匡(いいだ ただす)							
教員連絡先 (研究室所在地・TEL)	吹田キャンパス S1棟8階823室(横田)、825室(飯田) 電話: 06-6879-7647(横田)、06-6879-7648(飯田)							
E-MAILアドレス	yokota@arch.eng.osaka-u.ac.jp(横田) iida@arch.eng.osaka-u.ac.jp(飯田)							
履修対象	地球総合工学科建築工学コース(3年次)							
単位	2	セメスター				6		
受講条件	特になし。							
授業の教育目的・目標 他科目との関連	建築人間工学: 人間を入れる器である建築の計画・設計に欠かせない、人間の知覚や行動法則について学習する。また人間と建築空間、都市空間との関係についての理解を深める。 地域施設計画: 地域施設計画の役割とそれに必要な人口推計の方法、配置計画、規模計画の手法、さらに外部空間の構成や都市デザインとのかかわりについて述べ、地域における施設の役割について理解を深める。							
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H
	○		◎					○
授業計画・概要	テーマ		概要					学習・教育 目標
	建築人間工学とは何か(1回)		建築人間工学の歴史や概要と、計画・意匠等からみた建築計画の位置付けについて学習する。(高度1回)					AC
	視覚の法則とデザインの手法(1回)		視野、視認距離等の視知覚の法則性や、その建築デザインへの応用、色彩計画について習得する。(高度1回)					CH
	感性の人間工学(1回)		聴覚、臭覚等の人間の生理的、心理的側面と建築の空間計画との関係について学習する。(高度1回)					CH
	建築におけるユニバーサルデザイン(1回)		ユニバーサルデザインの視点から、建築設計に必要な各部の基本的な寸法について学習する。(高度1回)					CH
	安全・安心のデザイン(1回)		建築や都市空間における日常災害の状況を学び、日常安全性を高めるデザイン手法を習得する。(高度1回)					CH
	群集の行動法則(2回)		群集密度や群集の行動パターン等について述べ、不特定多数が集まる公共空間の計画手法を習得する。(高度2回)					CH
	地域施設計画とは何か(1回)		地域施設の種類とその必要性について述べる。(高度1回)					AC
	空間における知覚と行動法則(2回)		パーソナルスペース、なわばり行動とテリトリー、行動圏、生活圏等の概念を説明し、建築や都市空間とのかかわりについて学習する。(高度2回)					C
	行動の時間的法則性(2回)		行動の時刻変動、曜日変動、季節変動と建築や都市の空間計画とのかかわりについて学習する。(高度2回)					C
	建築と都市における人口と密度(2回)		建築内や地域、都市レベルにおける人口や人口密度の法則性を示し、建築や都市の空間計画とのかかわりについて学習する。(高度2回)					C
	学期末試験(1回)							
教科書	岡田光正著「建築人間工学・空間デザインの原点」、理工学社							
参考図書・文献等	岡田光正、柏原士郎他著「建築計画1[新版]」、鹿島出版会 柏原士郎著「地域施設計画論」、鹿島出版会 日本建築学会編「建築設計資料集成[人間]」、丸善株式会社 日本建築学会編「建築設計資料集成[物品]」、丸善株式会社							
成績評価方法・評価基準	学期末試験(80%)および小レポート(20%)で評価する。							
オフィスアワー	随時e-mailにて対応する。							
コメント	授業評価アンケートの結果等を参考にして講義内容を改善します。							